

## テーマ「相対化・言語化・内在化」

### ■考えるとは

「思考力を高めよう」というスローガンが掲げられ久しくなりますが、以前として「思考力が上がった」という結果を聞いたことはありません。そもそも私たちは「思考する」平たく言えば「考える」とは何かを確かめたことではないのかもしれませんが。

「論理的思考」という表現も耳にします。おそらく「想像」や「妄想」と区別しての表現かもしれませんが、平たく言えば「筋道を立てて考える」ということなのでしょう。

そこで、「筋道を立てて考える」ための手順を確かめてみましょう。

### ■言語化した内容の「内在化」

#### 自分の言葉だからこそ内容を受け入れられる。

言葉となった何かを覚えることはなかなか難しい。自分とかけ離れた言葉であれば、それはなお難しいでしょう。

しかし、自分が言葉とした何かは自分自身とつながりのあることなので、自分自身の中に受け込みやすくなります。

読んだ文章も自分の言葉としたことで受け込みやすくなります。自分で言葉にした物事も受け込むことで表出しやすくなります。

### ■視点を広げた「相対化」

#### 物事との距離をとる。「私たち」視点で物事を捉える。

文章を読むにしても、文章を書くにしても、一面的に捉える、あるいは何かを絶対的なものとするのでは、「考える」ことが中断してしまいます。

読んだ文章の内容や書こうとする文章の内容から少しはなれてみましょう。「筆者は結局何を伝えているのか」「私は何を伝えようとしているのか」と問いかけ、自分だけではなく、「私たち」の共通の内容として「考える」必要があるのです。

### ■まとめ

#### 言葉にすることの大切さをぜひ大切にしてもらいたい

「答えは文章の中にある」という指導は、筆者の言葉との格闘への敬意が足りない。

文章や物事と向き合い、自分が言葉と格闘をしてこそ、見てくる世界がある。

「考えること」は言葉との格闘である。その先にあるのは「分かること」「わかり合えること」である。

### ■物事と思考をつなぐ「言語化」

#### 相対化した物事に適切な言葉をあてはめる格闘。

読んだ文章について、結局それが何であるかとまとめるときに、それを言葉にすることが必要となります。自分が伝えたいことを表現するときにも、言葉にすることが必要となります。私たちは言葉選びという格闘を通して「考える」ことを行っているのです。

俗な話をすれば、「思考力と高める」ためにはまず言葉が必要なのです。それを抜きにして「思考を問う」ことばかりをしても思考力はつきようがありません。